



- 全長×全幅×全高/4770×1735×1865mm
- ホイールベース/2860mm
- トレッド/前:1480mm 後:1485mm
- 車両重量/1560kg
- 最小回転半径/5.7m
- エンジン/1997cc 直4 DOHC 直噴
- 最高出力/147ps/5600rpm
- 最大トルク/21.4kg・m/4400rpm
- JCOEモード燃費/15.2km/l
- ミッション/CVT
- ブレーキ/前:Vディスク 後:ディスク
- タイヤサイズ/195/60R16
- 駆動方式/FF
- 乗車定員/8名
- 車両本体価格(税別)2,799,300円(消費税別)



ちょっと近未来的な雰囲気のあるインパネ回りオーディオ等のスイッチ類もシンプルなデザインを採用しており非常に使いやすい。

ミニバンゆえ、広大なラゲッジスペースは存在するが、乗員を「荷物扱い」するような失礼なことはない。シートを立てるとそこにはラグジュアリーな空間が登場し、乗員に快適な居住空間を提供してくれる。

[illegible]

NISSAN SERENA S-HYBRID



■テキスト=横山 聡史(Lucky Wagon) ■Photo=川村 熱(川村写真事務所) ■取材協力=札幌日産自動車 西店 ☎(011)661-4123

プロフィール

■国産ミバンの先駆的存在

セナは'91年に登場して以来、日本のミニバン市場を代表する車種のひとつである。'99年に二代目へ移行した時点から、それまでの商用車イメージを新し「ファミリーで移動したり、買い物や荷物を大量に運ぶことのできるアーストカー」という地位を確立。'05年に三代目、'10年に四代目とフルモデルチェンジを行い、今年8月、S・HYBRIDが追加された。

3リサイクル率は全長4,770.0mmが巧みに取り入れられた懸吊システムで室内空間を生み出すボディでスタジオシユネを面も持たあわせると、今回事「HYBRIDシステム」が搭載される「F」車のほとんどの、HYBRID仕様とらた「ファミリーカー」として燃費はとても重要、しかしそれ、HYBRIDの両性性しかもとニークで、ある意味「これまのHYBRID車に対する」の提案と受け取ることもできる。

■新しい方向性のHYBRID

S-HYBRIDのSはスマート・シンブルを意味しており、実はこのネーミングこそセレナの特徴を表現している。

エンジンとモーターを併用するHYBRID車はすっかり市民権を得て、各メーカーとも既存車種にHYBRID車を設定したりHYBRID専用車を発表してきてい



ミニバンにありがちな、コーナーでフワフワという挙動はほぼ無いと言っていい。実際にワインディング路を走らせてみたが、セダンを運転しているような感覚でコーナーをクリアできるはずだ。ステアリングの反応も上々で、路面状況の変化に応じた舵の修正も容易だ。意外にスパーサータイプならではの、ハンカチを握るのが楽しくなるクルマだ。



ミニバンにありがちな、コーナーでフワフワという挙動はほぼ無いと言っていい。実際にワインディング路を走らせてみたが、セダンを運転しているような感覚でコーナーをクリアできるはずだ。ステアリングの反応も上々で、路面状況の変化に応じた舵の修正も容易だ。意外にスパーサータイプならではの、ハンカチを握るのが楽しくなるクルマだ。

1,865mmという車高のため、現車を見るときは大きく感じられるが、スポーティなエクステリアの懸念で軽快感がある。特にフロントはスタイリッシュでファミリーでの楽しいドライブを予感させてくれる。リアは簡潔的にストンと切り落とされたようなデザインながら、有効室内空間を最大限確保するためのであろう。サイドウィンドウのヒールが黒く塗装されているのもスポーティ感を演出しており、後方および斜め後方視界も良いので、とても運転しやすい。

インテリアはブラック系とライトグレー系の2種。メーターパネルは近未来的で、右側にECOメーターが備わる。円グラフをアクセラレーションに見立ててエコドライブをナ

■スポーティな演出が楽しいドライブを予感させる

インプレッション

人気を支える要因である「広い室内」をスポイルせず、価格をほんとうに下げることなくHYBRID化したというのがS-HYBRIDなのである。かつてプリウスとインサイトを比較する書籍やメディアでの表現が多く、方向性の違いのを見て、なんとも残念な感にとられたことがあったが、セレナにおいても同様の懸念はある。目指す方向性が各社違うのでHYBRIDでもあつても燃費だけで判断するのは早計なのである。セレナを検討したいという方は、ネットなどで情報を集めることも、足元ディーラーで詳しく話を聞いてみて欲しい。

ディーラーメッセージ

札幌日産自動車 西店

カーライフアドバイザー **野澤 明彦** さん



セレナの魅力のひとつである広大な室内空間を犠牲にせず、かつ燃費にも優しいハイブリッドで、長く節約できるのがS-HYBRIDの特長です。モーター主体のストロングHYBRIDとも、エンジン主体のマイルドHYBRIDとも異なり、セレナはマイルドHYBRIDと位置づけられていますが、大幅な価格アップを避け、シンプルながらHYBRIDシステムを燃費や走行性能に有効活用すること、これがセレナS-HYBRIDの方向性であり、足元で理解いただけると思います。ご試乗、ご見学、お待ちしております。

ビギターするほか、瞬間燃費やアイドリングストップ時間と、それによる燃料節約量などを見やすく表示してくれる。またエコ走行時や減速時などに「S-HYBRID」表示が細かく表示されるので、ドライブの指標となってくれる。

■様々なシーンで大活躍するミニバンの基本形

取材ではタイタをコーナーも走ってみたが、予想したほどロールが大きくないのは好印象だった。積座位置が高すぎることもなく、乗用車から乗り換えても違和感がない。上乗降が楽で、車上にも広大なスペースがある。この開放感を味わってしまつと癖になるかも知れない。

足回りは若干柔らかに感じられたが、おそらく4名以上の乗車の際に速度なバラツキになるよう考慮されているのではないだろうか。ステアリングはユートラルな印象で、基本に忠実なアクセル操作さえ行えば、とても素直な挙動で応えてくれる。またマンホールなどの段差をなんでも吸収し、不快な突き上げもないので、後席の乗員は安心してドライブを楽しみたいとがききた。また14通りもの多彩なシートアレンジも魅力。特に2列目の席の間に空間を作ることで、専用のウォークスルーモードは、お子さんをお持ちの方には嬉しいことだろう。またベビーカーをたたまずに積み込めたり、26インチのマウンテンバイクを4台積み込めるなど、活用方法は無限に。まさにミニバンかくあるべきという台であると思う。